

付 録

簿記原理Ⅰ 前期1年次 2単位 教授 照屋行雄

〈講義概要〉

簿記とは、企業、家計、官庁等の経済主体の経済活動を貨幣金額によって、一定の方式により記録計算し、その結果を報告する手続である。従って、簿記は理論や原理に支えられながら、他方で技術的性格を強くもっている。

本講義では、初めて簿記を学ぶ者を対象に、現代簿記の基礎概念と計算原理を学修することを目標とする。簿記を成立せしめている基礎概念は資産、負債、資本、収益および費用の5要素であり、また、簿記の計算原理は貸借平均の原理を支えられた貸借（増減）記入の原則である。主としてサービス業および商業における簿記を学習することを通じて現代簿記（複式簿記）の基本原理を修得することに努める。

本講義での学修内容は大きく2つの領域に分けられる。すなわち第1は、簿記の意義、基本前提、5要素、取引、勘定科目などの基礎概念を理解することであり、第2は、仕訳帳および元帳記入、試算表および精算表の作成、決算本手続、損益計算書および貸借対照表の作成など簿記一巡の手続を修得することである。

本講義は、「簿記原理Ⅱ」および、「会計学原理Ⅰ・Ⅱ」その他の会計関連科目の基礎科目であり、とりわけ意欲的に学習することが求められる。

〈講義計画〉

はじめに、本講義の概要、講義計画、講義運営、評価方法等について説明する。

第1部 簿記の基礎概念

- 1 簿記の意義と目的
- 2 簿記の種類と前提
- 3 資産、負債、資本と貸借対照表
- 4 収益、費用と損益計算書
- 5 取引の意義と種類
- 6 勘定科目
- 7 貸借記入の原則（増減記入の原則）

第2部 複式簿記の原理

- 1 貸借平均の原理
- 2 仕訳と仕訳帳
- 3 総勘定元帳と転記
- 4 試算表の機能と種類
- 5 精算表の作成
- 6 帳簿決算手続
 - (1) 損益勘定の設定と純損益の算出
 - (2) 元帳勘定の締切と繰越記入
- 7 損益計算書および貸借対照表の作成

〈講義運営及び評価方法〉

- 1 簿記はすぐれて技術性の高い科目であるため、取引例の記帳演習が不可欠である。教科書の問題以外にできるだけ多くのプリントを配布し、問題演習に努める。
- 2 本講義では毎回の講義にきちんと出席して、その都度学習課題をマスターしていくことが求められる。したがって、出席を毎回チェックする。
- 3 成績の評価は期末試験の結果を基礎とする。ただし、その間必要に応じて2～3回の小テストを実施し、成績評価の参考とする。
- 4 簿記学習の目標を設定し、学修の成果を測定する手段として、日商、全経等の簿記検定試験を利用することは有用である。簿記検定試験の受験を強くすすめる。
- 5 簿記の学習においては、まず基礎をしっかり固め、一步一步着実に勉強を積み上げることが肝要である。学生諸君には途中であきらめずに、最後までやり抜くという姿勢を堅持して欲しい。

〈使用教材〉

(使用書) 柳田仁・照屋行雄他著 『現代簿記の基礎』〔中央経済社〕

(参考書) 新井清光編 『日商三級／検定簿記』〔中央経済社〕

なお、卓上計算器を持参のこと。